

紺田 広明、鶴田 直之 須長 一幸 佐藤 寿倫

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：火・5時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

大学では、所属する学部学科によらず、体系化された学問知識だけではなく、「データの読みとり方」、「他人の意見の要点のとらえ方」、「論理的な思考法」、「質問の仕方」、「批判や反論の方法」、「他人に自分の意見を伝える方法」、「ノートのとり方」、「わかりやすい文章の書き方」といった多くの高度なアカデミックスキルズ（学問的技法）を習得する必要があります。この授業では、それらの基礎部分である「読む、聞く、話す、書く」能力をアカデミックスキルズの習得に必要な不可欠なレベルにまで多角的に養います。そのために、授業は異なる学問分野を専門とする4名の教員が担当します。同時に大学で学問を修めるための学ぶ態度や規律性も身に付けます。

--- 授業の進行・方法 ---

それぞれのチームは3名の教員から4回ずつ授業を受けることになります。そこでは、「授業計画」の欄の第2回目から第13回目までに記載している複数の入門的なアカデミックスキルズ活用場面を通じて「読む、聞く、話す、書く」能力を育成する授業を行います。また、各4回ずつの授業後には、その授業内容を振り返り整理するミニレポート課題に取り組みます。さらに、第14回目と第15回目の合同ゼミでは、受講生全員が一つの教室に集まって、これまでに学んできた内容を紹介するプレゼン発表をすることで、それまでに養った「読む、聞く、話す、書く」能力を実地に活用する課題に取り組みます。学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

入門的なアカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）の意味・方法・重要性について理解することができる。（DP1-1）(知識・理解)

今後の自分が学んでいく学問において、アカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）の活用を考えることができる。（DP1-2）(態度・志向性)

さまざまな領域の学問が関わる授業の体験を踏まえた、広い視野と多角的に物事を見ることができる。（DP2-1）(態度・志向性)

他者と協働して活動するために、自分の主張や考えに固執せずに、さまざまな他者の主張や考えを受け入れる柔軟さを持つことができる。（DP2-2）(態度・志向性)

他者と協働して活動するために、積極的な態度で参加して、責任ある言動をとることができる。（DP3-1）(態度・志向性)

アカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）を活用して、主張と根拠に基づく、論理性を踏まえた、基本的なレポートや提案を作成することができる。（DP4-1）(技能)

アカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）を応用して、多様な他者に自分の主張が伝わる発表としてまとめることができる。（DP4-2）(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

理解のむずかしかった点を自分なりに整理する。(30分)

次の授業までに調べてくるよう指示された項目については予習をする。(60分)

授業で習得したアカデミックスキルズを他の授業等の学習に活用する。(60分)

必要とされる授業回では、レポートと発表を、教員の指導に従い十分な時間をかけて作成する。(120分)

--- 成績評価基準および方法 ---

定期試験は行いません。よって再試験も実施しません。授業の第2回目から第13回目までは、授業の各回で用意された入門的なアカデミックスキルズを活用する際の発言や活動、宿題により、「読む、聞く、話す、書く」能力および積極性を総合的に評価します。一方、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席、宿題の未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点とします。

第14回目と第15回目の合同ゼミでは、プレゼン発表と質疑応答を通じて紹介内容（根拠の有無、実現性、効果、論理性）と表現の工夫、質疑応答内容を評価します。

3回のミニレポートと学期末の最終レポートでは、内容の構成と論理性、レポート作成ルールの順守、形式的な体裁を評価します。剽窃などのルール違反は大幅な減点とします。

以上、平常点、合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ6割、2割、2割とします。

--- テキスト ---

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

--- 参考書 ---

・『福大生のための学習ナビ』（福岡大学 教育開発支援機構）
<http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/navi/navi2.pdf>
・『「言葉の力」育成の手引』（福岡大学 教育開発支援機構）
<http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/kotochika-tebiki/kotochika-tebiki.pdf>
・佐藤望編著『アカデミック・スキルズ』（慶應義塾大学出版会）
ISBN 978-4-7664-1960-3
その他、授業中に適宜紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

・このアカデミックスキルズゼミIIは、講義形式の授業とは異なり、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、ゼミの仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけていくこととなります。その意味で、授業には積極的な姿勢で臨み、安易に欠席や遅刻をしないようにしましょう。
・後期開講の「アカデミックスキルズゼミ」もあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

--- 授業計画 ---

○第1回：合同ガイダンス（スタートアップ授業）
合同ゼミに向けた個別課題（1回目）が提示されます。
○第2～5回、第6～9回、第10～13回：各教員による4回分の授業
「概要」欄に書いたように、2回目から13回目までは、受講生は4つに分かれます。それぞれは3名の教員から4回ずつ授業を受けることとなります。担当教員3名の組合せはそれぞれ異なります。詳細はスタートアップ授業で説明します。なお、4名の教員の4回分の講義内容は以下の通りです。

鶴田（情報科学）
読む：文章の構造を手掛かりに読もう
書く：批判を基に自分の意見を考えよう
話す：自分の意見を構造化して伝えよう
話す・聞く：学んだことをチームでまとめよう

佐藤（計算機工学）
読む：読んで理解する
聞く：聞いて理解する
話す：話して伝える
書く：書いて伝える

須長（科学哲学）
聞く：大学の「ルール」を知ろう
書く：大学と高校の授業の違いを考えよう
読む：より深く考えるための読み方を学ぼう
話す：意見交換の技術を知ろう

紺田（心理学）
読む：自己分析から自分を理解しよう
話す：自分の言葉で他者に伝えよう
聞く：他者の話を聞き視野を広げよう
書く：これからの目標をまとめよう

○第14～15回：合同ゼミ
第14～15回では、各グループの学習成果の全体発表、そしてそれらを分析的に振り返るグループワークを実施します。加えて、授業アンケートFURIKAを実施する。

すべての授業を鶴田・佐藤・須長・紺田が担当する

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/w98u5qojivgwnwxfrq4nnoui585ssxq>)

紺田 広明、鶴田 直之 須長 一幸 佐藤 寿倫

全学部学科: DP1-1,DP1-2,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.入門的なアカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）の意味・方法・重要性について理解することができる。（DP1-1）（知識・理解）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.今後の自分が学んでいく学問において、アカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）の活用を考えることができる。（DP1-2）（態度・志向性）

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）
DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

3.さまざまな領域の学問が関わる授業の体験を踏まえた、広い視野と多角的に物事を見ることができる。（DP2-1）（態度・志向性）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

4.他者と協働して活動するために、自分の主張や考えに固執せずに、さまざまな他者の主張や考えを受け入れる柔軟さを持つことができる。（DP2-2）（態度・志向性）

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

5.他者と協働して活動するために、積極的な態度で参加して、責任ある言動をとることができる。（DP3-1）（態度・志向性）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

6.アカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）を活用して、主張と根拠に基づき、論理性を踏まえた、基本的なレポートや提案を作成することができる。（DP4-1）（技能）

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

7.アカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）を応用して、多様な他者に自分の主張が伝わる発表としてまとめることができる。（DP4-2）（技能）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

道山 治延、関口浩喜、高橋伸弥

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：木・1時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

大学では、所属する学部学科によらず、体系化された学問知識だけではなく、「データの読みとり方」、「他人の意見の要点のとらえ方」、「論理的な思考法」、「質問の仕方」、「批判や反論の方法」、「他人に自分の意見を伝える方法」、「ノートのとり方」、「わかりやすい文章の書き方」といった多くの高度なアカデミックスキルズ（学問的技法）を習得する必要があります。この授業では、それらの基礎部分である「読む、聞く、話す、書く」能力をアカデミックスキルズの習得に必要な不可欠なレベルにまで多角的に養います。そのために、授業は異なる学問分野を専門とする3名の教員が担当します。同時に大学で学問を修めるための学ぶ態度や規律性も身に付けます。

--- 授業の進行・方法 ---

この授業は、講義形式とグループワークを組み合わせで行ないます。具体的には以下の通りです。まずスタートアップ授業の後に、受講生を3チームに分けます。それぞれのチームは3名の教員から3回ずつ授業を受けることとなります。そこでは、「授業計画」の欄の第3回目から第11回目までに記載している複数の入門的なアカデミックスキルズを活用する場面（グループワークを含む）を通じて「読む、聞く、話す、書く」能力を育成する授業を行ないます。その後、第12回目と第13回目の授業では、合同ゼミのための準備を行ないます。そして、第14回目と第15回目の合同ゼミでは、受講生全員が一つの教室に集まって、それまでに養った「読む、聞く、話す、書く」能力を実地に活用する課題に取り組み、それを発表します。また、学期中に提出するミニレポートを通じてレポート作成のルールと基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を踏まえた内容のレポートを作成する練習をした後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

大学での学習の基礎となる「読む・書く・話す・聞く」技能が身につく。(DP1-1)(知識・理解)

新しい知識や情報を自ら調べ、検討する姿勢をもつ。(DP1-2)(知識・理解)

文系・理系の諸学問の特性に対する基本的な理解が身につく。(DP2-1)(知識・理解)

異なる学部・学科のメンバーとのグループワークを通じて、自分の見方を広げる態度をもつ。(DP2-2)(知識・理解)

相手の主張やテキストのポイントを掴むための基本的な知識が身につく。(DP3-1)(知識・理解)

異なる学部・学科のメンバーとの話し合いにおいて、自分の主張を明確に伝えるための基本的な諸技能が身につく。(DP4-1)(知識・理解)

グループワークにおいて、自分の役割に責任をもち、グループに貢献する態度が身につく。(DP4-2)(技能)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

理解することがむずかしかった点を整理し、次回の授業で質問できるよう準備する。(60分)

次回の授業までに調べてくるよう指示された項目に関して予習を行なう。(60分)

課題・レポートが出された場合には、図書館等であらためて調査をし、十分な時間をかけて作成する。(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

定期試験は行ないません。よって再試験も実施しません。授業の第3回目から第11回目までは、授業の各回で用意された入門的なアカデミックスキルズを活用する際の発言や活動、宿題により、「読む、聞く、話す、書く」能力および積極性を総合的に評価します。一方、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席、課題の未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを平常点とします。

第14回目と第15回目の合同ゼミでは、チーム毎の発表と質疑応答を通じて提案内容（根拠の有無、実現性、効果、論理性）と表現の工夫、質疑応答内容、チームワーク（協調性）をチーム単位で評価します。

ミニレポートと学期末の最終レポートでは、内容の構成と論理性、レポート作成ルールの順守、形式的な体裁を評価します。剽窃などのルール違反は大幅な減点とします。

以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ6割、1割、3割とします。

--- テキスト ---

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

--- 参考書 ---

福大生のための学習ナビ
アカデミック・スキルズ ISBN 978-4-7664-1324-3
新版論理トレーニング ISBN 978-4782802113
その他、授業中に適宜、紹介します。

--- 履修上の留意点 ---

このアカデミックスキルズゼミIIは講義形式の授業とは異なり、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、ゼミの仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけてゆくこととなります。その意味で、授業には積極的な姿勢で臨み、安易に欠席や遅刻をしないようにしましょう。また、もし可能であれば、後期開講のアカデミックスキルズゼミ もあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

--- 授業計画 ---

1回 インTRODクシヨン（スタートアップ授業）
2回 合同ガイダンス
3回～11回

「概要」欄に書いたように、3回目から11回目までの授業では、受講生は3つのチームに分かれます。それぞれのチームは3名の教員から3回ずつ授業を受けることとなります。各チームの担当教員割および教室は第2回目の全体ガイダンスで通知します。授業の詳細は第2回目の合同ガイダンスで説明します。

なお、3名の教員の3回分の講義内容は以下の通りです。

関口（人文）、読む：文章のポイントをつかもう、話す：的確に質問しよう、話す：的確に批判しよう
道山（法）、聞く：ノートをとろう、読む：文献を読もう、話す：意見を交換しよう
高橋（工）、聞く・読む：要点をメモしよう、書く・話す：内容や構成を考えよう

12回・13回 合同ゼミのための準備作業
14回・15回 合同ゼミ
& 授業アンケートFURIKAの実施

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/blkm2g4ren5i72qc3g7orw4ndolhqvqj>)

道山 治延、関口浩喜、高橋伸弥

全学部学科: DP1-1,DP1-2,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.大学での学習の基礎となる「読む・書く・話す・聞く」技能が身につく。
(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.新しい知識や情報を自ら調べ、検討する姿勢をもつ。(DP1-2) (知識・理解)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.文系・理系の諸学問の特性に対する基本的な理解が身につく。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.異なる学部・学科のメンバーとのグループワークを通じて、自分の見方を広げる態度をもつ。(DP2-2) (知識・理解)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.相手の主張やテキストのポイントを掴むための基本的な知識が身につく。
(DP3-1) (知識・理解)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

6.異なる学部・学科のメンバーとの話し合いにおいて、自分の主張を明確に伝えるための基本的な諸技能が身につく。(DP4-1) (知識・理解)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

7.グループワークにおいて、自分の役割に責任をもち、グループに貢献する態度が身につく。(DP4-2) (技能)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

吉田 秀幸、関口 浩喜、高橋 伸弥、道山 治延

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：木・1時限 試験時間割：定期試験なし

概要

この授業では、大学での学修に必要な基本的な「学問の技法（アカデミックスキルズ）」をアクティブラーニング形式によって多角的に学びます。特にアカデミックスキルズゼミは「思考と発想のレッスン」ということで、順序立てて考える習慣を身につけることや新しいアイデアを得るための方法を学ぶことに重点を置きます。本授業は、与えられたテーマに関するグループワークを中心に進行します。また、異なる学問分野を専門とする4名の教員が担当しますので、色々な考え方や論理の展開の仕方を知ることができます。

開講期間中のミニレポートを通じてレポート作成のルールと文章の基本的な体裁を知り、適切な構成と論理性を備えた内容のレポートを執筆する練習をします。その後、学期末には、合同ゼミの内容を踏まえて各自が最終レポートを提出します。なお、定期試験・再試験は実施しません。

つまり、このアカデミックスキルズゼミを受講し、講義へ主体的に参加することで、グループによる学習方法、順序立てて物事を考える習慣、諸学問の特性に対する基本的理解、多様なものの見方や柔軟な発想力、自己の発言や意見への責任感、物事に粘り強くグループとして取り組む姿勢、作成ルールを順守したレポート作成方法、グループでの合意形成による解決能力の向上、などの知識・理解、技能及び態度・志向性を修得することができます。

授業の進行・方法

この授業の進行方法と形態は、次の通りです。受講生を4つのチームに分けます。それぞれのチームは、合同ガイダンス（第2回目）での授業概要説明とアイスブレイクの後、第3回目から第11回目まで3名の教員から3回ずつ授業を受けることになります（添付ファイル参照）。そこでは、具体的なテーマや課題が提示され、その解決のための方法や手続きをチーム全員で考え議論しながら、多面的な考え方を自ら学び、今後の大学での学修に応用するアカデミックスキルズを身につけます。

第12回目と第13回目の共通課題グループワークでは、それまでに学んだアカデミックスキルズを応用して、全てのチームが共通の課題に取り組めます。第14回目と第15回目の合同ゼミでは、各チームは共通課題グループワークの成果を発表し、受講者全員で討論します。

この授業は、全ての授業回をアクティブラーニング形式で実施します。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

グループによる学習方法、即ち、人の話を聞く、自分の意見をわかりやすく伝える、グループで定めた学習ルールを守る、議論に積極的に参加する、仲間と協働で課題に取り組む、等の技能を身につける。(DP1-1)(技能)

順序立てて物事を考える習慣を身につける。(DP1-2)(態度・志向性)

文系・理系の諸学問の特性に対する基本的理解を身につける。(DP2-1)(知識・理解)

他人の思考方法や発想方法を学ぶことで、多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を修得する。(DP2-2)(技能)

自分の意見に責任を持って発言できる。(DP3-1)(態度・志向性)

グループワークを通して、結論が出るまで粘り強く課題に取り組むことができる。(DP3-2)(態度・志向性)

ミニレポートと最終レポートでは、レポート作成ルールを順守して形式的な体裁を整え、適切な構成と論理性を備えた内容のレポートを作成できる。(DP4-1)(知識・理解)

一人では解決できない複雑な問題に対して、グループを形成することで解決していこうとする態度を身につける。(DP4-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

授業後に復習をして、理解の難しかった点を自分なりに整理し、次の授業で質問するようになしてください。(60分)

次の授業までに調べてくるよう指示された項目については必ず予習をしたうえで、授業に臨んでください。(60分)

課題やレポートは、教員の指導と評価の基準に従い、十分な時間をかけて準備・作成してください。(60分)

成績評価基準および方法

第3回目から第13回目までの授業では、グループワークでの発言内容（多様なものの見方や分析、柔軟な発想ができたかどうか）や積極性、協働して問題解決に取り組む姿勢、プレゼンテーション時の質疑応答などを総合的に評価します。なお、講義への欠席や遅刻などのグループワークを行う際の協調性を乱すような行為、あるいは課題などの未提出や提出遅延は減点の対象とします。これらを個人の平常点とします。

第14回目と第15回目の合同ゼミでは、グループ毎の発表と質疑応答を通じて提案内容と表現の工夫、質疑への応答状況、チームワークなどをグループ単位で評価します。

開講期間中のミニレポートと学期末の最終レポートでは、与えられた問題に対する多様なものの見方や、柔軟な発想に基づく解決策が正しい日本語で表現されているかについて個人単位で評価します。留意点として、生成AIに文章を作成させているもの、あるいはネット上の文章や他人の文献からの剽窃は大幅な減点になります。自分の考えを自分の言葉で表現することが大切です。

以上、平常点と合同ゼミ、レポートの評価の割合は、それぞれ6割、1割、3割とします。定期試験・再試験は、いずれも実施しません。

テキスト

特に使用しません。授業中に、適宜、プリントなどを配布します。

参考書

『「言葉の力」育成の手引き』（福岡大学 教育開発支援機構）
<http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/kotochika-tebiki/kotochika-tebiki.pdf> [アクセスは学内限定]

『福大生のための学習ナビ』（福岡大学 教育開発支援機構）グループ発表の準備の仕方
<http://www.idshe.fukuoka-u.ac.jp/navi/dbook/>

その他、授業中に適宜、紹介します。

履修上の留意点

このアカデミックスキルズゼミは講義形式の授業とは異なり、受講する皆さんが主役となってグループワークを行うアクティブラーニング形式の授業です。担当教員が説明をする場面もありますが、基本的には皆さん自身が自ら考え、調べ、発言し、他の仲間と議論することを通じてアカデミックスキルズを身につけることとなります。その意味で、授業には積極的な姿勢で臨み、安易に欠席や遅刻をしないようにしましょう。無断欠席をすると、評点の6割を占める平常点を評価できません。なお理由があって欠席する場合には、授業開始までにメール等で担当の教員に連絡して下さい（次回の授業に向けた課題が出ている場合があるので、授業後であっても必ず担当教員に連絡し、課題等の有無を確認すること）。

もし可能であれば、前期開講のアカデミックスキルズゼミもあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの修得が期待できます。なお、定期試験を実施しないため、再試験を受験することはできません。

授業計画

1. イントロダクション：スタートアップ授業（動画）[担当者全員]
2. 合同ガイダンス：授業概要の説明、アイスブレイク [担当者全員]

3~11. 個別ゼミ：「授業の進行・方法」欄に書いたように、3回目から11回目までは、受講生は4つのチームに分かれ、チーム毎にグループワークを行います。それぞれのチームは3名の教員から3回ずつ授業を受けることになります。担当教員の組み合わせは、チームによって異なります。各チームの担当教員割（添付ファイル参照）は、第2回の授業で詳しく説明します。なお、4名の教員は以下に記載する内容を3回の授業として実施します。

関口（人文学部）

一錠しかない特効薬を誰に与えるべきか？：問題を正確につかみ、自分なりの回答を考える。

一錠しかない特効薬を誰に与えるべきか？：他人の回答を聞きながら、多面的に考える。

友人ができないという悩み：問題を正確につかみ、自分なりの回答を考える。

高橋（工学部）

解決したい問題を各グループで設定する。
問題の解決法を調査し、その結果を発表資料としてまとめる。
調査結果の発表、質疑応答を行う。

道山（法学部）

読む/調べる：「できちゃった結婚」って何？
意見を交換しよう：「できちゃった結婚」の何が問題？
まとめよう：グループで結論

吉田（薬学部）

命を育む：頭を柔らかくして、柔軟な発想を試みる。
命を守る：グループで考え、物事を多面的に捉える。
命を考える：様々な意見を集約し、発表・討論する。

12,13. 共通課題グループワーク：全チームで共通の課題に取り組む [担当者全員]

14,15. 合同ゼミ：共通課題に対するグループとしての見解を発表し、討議する [担当者全員]

授業アンケートFURIKAは、第15回目の講義時間内で実施します。

スタートアップ授業

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/hspjtciemxeikou7bpadgf23mjuaho4p>)

添付ファイル

ASゼミ2授業予定2024_木1
(2024授業予定.pdf)

吉田 秀幸、関口 浩喜、高橋 伸弥、道山 治延

全学部学科: DP1-1,DP1-2,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. グループによる学習方法、即ち、人の話を聞く、自分の意見をわかりやすく伝える、グループで定めた学習ルールを守る、議論に積極的に参加する、仲間と協働で課題に取り組む、等の技能を身につける。(DP1-1) (技能)

2. 順序立てて物事を考える習慣を身につける。(DP1-2) (態度・志向性)

3. 文系・理系の諸学問の特性に対する基本的理解を身につける。(DP2-1) (知識・理解)

4. 他人の思考方法や発想方法を学ぶことで、多様なものの見方や分析の仕方、柔軟な発想力を修得する。(DP2-2) (技能)

5. 自分の意見に責任を持って発言できる。(DP3-1) (態度・志向性)

6. グループワークを通して、結論が出るまで粘り強く課題に取り組むことができる。(DP3-2) (態度・志向性)

7. ミニレポートと最終レポートでは、レポート作成ルールを順守して形式的な体裁を整え、適切な構成と論理性を備えた内容のレポートを作成できる。(DP4-1) (知識・理解)

8. 一人では解決できない複雑な問題に対して、グループを形成することで解決していこうとする態度を身につける。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性

理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

鈴木 学、鶴田直之、須長一幸、紺田広明、請園智玲

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：火・5時限 試験時間割：定期試験なし

概要

大学で学ぶことは、みなさんが所属する学部学科において体系化された学問知識だけではありません。「データの読みとり方」、「他人の意見の要点のとらえ方」、「論理的な思考法」、「質問の仕方」、「批判や反論の方法」、「他人に自分の意見を伝える方法」、「ノートのとらえ方」、「わかりやすい文章の書き方」といった全学部学科に共通する多くの高度なアカデミックスキルズ（学問的技法）を習得する必要があります。この授業は、それらの基礎である「読む、聞く、話す、書く」能力を活かしながら、順序立てて考えたり、アイデアを得るための新しい方法に挑戦したりする「思考と発想のレッスン」です。大学で学ぶ上で、すでにみなさんが有している基礎的かつ必要不可欠な能力を、アカデミックスキルズのレベルにまで高められるよう、多角的にトレーニングしていくのがこの授業です。そのために、授業は異なる学問分野を専門とする5名の教員が担当します。

この授業の進め方は少し特殊です。第2回から第13回の授業では受講生は5チーム（5教室）に分けられ、各チームは教員3名から授業を受講することになります。各教員の授業は4回で完結するように構成されています。みなさんはそこで、多様なアカデミックスキルズ活用場面を通じて「読む、聞く、話す、書く」能力を高めつつ、仲間と議論しながら思考・発想する方法を学んでいきます。加えて、各教員の4回分の授業を受講後、その授業内容に関わる課題に取り組むことで、学習の定着を図ります。

第14回と第15回の授業では、受講生全員が一つの教室に集まって合同ゼミを実施します。全体でのグループワークを通じて、本授業での自分たちの学習成果を確認し、みんなで共有していきます。これらを受けて、学期末にはみなさん一人ひとりに事後レポートを執筆してもらいます。

授業の進行・方法

みなさんは10名で構成されるチームに所属し、そのチームで演習形式の授業に臨みます。教員1名につき4回分の授業が設定されており、各チーム3名の教員から学びます。教員の専門によって授業で扱うテーマは異なりますが、どの教員の授業もアカデミックスキルズを磨くための学習活動が用意されています。1教員4回分の授業が終了した時点で、それら授業での学習を総括した課題に取り組めます（計3回）。

第14回と第15回の授業では、全チームが一つの教室に集い、振り返りのグループワークを実施します。全授業終了後には期末課題として事後レポートが課されます。なお事後レポートは、スタートアップ授業動画で課される事前レポートと対になる課題です。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

アカデミックスキルズ（「読む、聞く、話す、書く」能力）の意味・方法・重要性について理解することができる。（DP1-1）(知識・理解)

自他の学習の活性化に向けて思考し、発想し続けることができる。（DP1-2）(態度・志向性)

様々な学問分野の学習を経験し、自身の専門分野以外の立場にも理解を示すことができる。（DP2-1）(知識・理解)

グループワークにおいて他者の意見や考えを傾聴できる。（DP2-2）(技能)

自身の考えや意見を適切かつ論理的に他者に伝えることができる。（DP3-1）(知識・理解)

チームでの学習活動において自己・他者・全体の状況を多角的に分析し、課題解決に向けて貢献することができる。（DP3-2）(態度・志向性)

他者が納得する構成のレポートや発表資料を整えることができる。（DP4-1）(技能)

仲間と協働することの価値を自分なりに見いだした上で、その価値の実現に向けて活動しようとする事ができる。（DP4-2）(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

<復習>
授業後、論点を整理し、特に難しかった点について次回質問する。(120分)

<予習>
指示された課題について、調べてまとめ上げる。(60分)

成績評価基準および方法

定期試験は行いません。よって再試験も実施しません。各教員による授業では、ゼミでの発言の内容（多様なものの見方や分析、柔軟な発想ができたかどうか）や積極性、協調して問題解決に取り組む姿勢を総合的に評価します。なお、協調性を乱すような行為、遅刻や欠席によって生じる不十分な学習活動、課題の未提出や提出遅延は減点対象です。これらを平常点とします。

4回分の授業後の課題（計3回）では、各教員の授業で学んだことが十分に活かされていることが重要です。この課題については授業内のグループワークで得られた他者の知見も反映させた上で、自身の考えをより一層磨いているかを評価します。事前レポートと事後レポートでは、与えられた課題に対して、多様なものの見方と柔軟な発想に基づく意見表明が、適切な内容と方法で表現されているかについて評価します。留意点として、ネット上の文章や他者の文献からの剽窃は厳禁です。ルールに則った引用を行い、自分の考えを自分の言葉で表現することを大切にしてください。

以上の評価割合は、平常点40%、4回分の授業後の課題（計3回）30%、事前レポート15%、事後レポート15%とします。

テキスト

特に使用しません。

参考書

『福大生のための学習ナビ』（福岡大学 教育開発支援機構）
「言葉の力」育成の手引』（福岡大学 教育開発支援機構）
その他、授業中に適宜紹介します。

履修上の留意点

本授業は講義形式の授業とは異なり、参加するみなさんが主体となって作り上げる授業です。担当教員が講義する場面もありますが、基本的にはみなさん自身が自ら考え、調べ、発言し、他の仲間と議論することを通じて自身のアカデミックスキルズを鍛えていくこととなります。その意味で、授業には積極的な姿勢でのぞむことが求められます。無断欠席による学習活動の不履行は大幅な減点対象ですので、欠席する場合には授業開始までにメール等でその授業回を担当する教員に連絡してください（次回の授業に向けた課題がでている場合があります。授業後であっても次回までに担当教員に連絡し、課題の有無を確認しましょう）。

なお、可能であれば、前期開講の「アカデミックスキルズゼミ」もあわせて履修することを勧めます。より充実したアカデミックスキルズの習得が期待できます。

授業計画

○第1回：合同ガイダンス（スタートアップ授業）
・本授業での学び方のレクチャーとともに、事前レポートの課題が提示されます。

○第2～13回：各教員による4回分の授業
・「概要」欄に書いた通り、この授業回は各チーム教員3名から4回ずつ授業を受けます。担当教員3名の組合せはチームによって異なります（担当教員割は第2回授業実施までに通知します）。
・教員5名の専門分野と4回分の講義内容は以下の通りです。

<鈴木（学習科学）>

「資質・能力」概念を理解する
ルーブリックで「資質・能力」を具現化する
ルーブリックで「資質・能力」同士の整合性をとる
自身の成長目標をルーブリックで管理する

<鶴田（情報科学、開発の思考と発想）>

チームで課題を共有する
何を作るか設計する
作る工程を設計する
開発をチームで管理する

<須長（科学哲学）>

「批判的に考える」技術の重要性を理解する
「批判的に考える」技術の基本を学ぶ
「批判的に考える」技術を磨く
「批判的に考える」技術を深める

<紺田（心理学）>

心理や学びを測定することを考える
心理や学びを測定することを体験する
心理テストを作成する
心理テストを分析する

<請園（コンピュータ科学）>

情報の不思議を体験する
情報の機能を理解し伝える
コンピュータの役割・応用を議論する
論理的理解と応用のための「学び」のアプローチについて議論する

○第14・15回：合同ゼミ

・第14回の授業では、受講した各教員による4回分の授業を振り返り、そこでの学習成果を自分たちで分析し共有するグループワークを実施します。

・第15回の授業では、事後レポートの課題提示と書き方のレクチャー、授業全体の総括、FURIKAを実施します。

すべての授業を鈴木・鶴田・須長・紺田・請園が担当する

スタートアップ授業

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/vmcm0bfq8bgmtz384qn78yzi9ytksd>)

鈴木 学、鶴田直之、須長一幸、紺田広明、請園智玲

全学部学科: DP1-1,DP1-2,DP2-1,DP2-2,DP3-1,DP3-2,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.アカデミックスキルズ(「読む,聞く,話す,書く」能力)の意味・方法・重要性について理解することができる。(DP1-1) (知識・理解)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

2.自他の学習の活性化に向けて思考し、発想し続けることができる。(DP1-2) (態度・志向性)

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

3.様々な学問分野の学習を経験し、自身の専門分野以外の立場にも理解を示すことができる。(DP2-1) (知識・理解)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

4.グループワークにおいて他者の意見や考えを傾聴できる。(DP2-2) (技能)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

5.自身の考えや意見を適切かつ論理的に他者に伝えることができる。(DP3-1) (知識・理解)

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

6.チームでの学習活動において自己・他者・全体の状況を多角的に分析し、課題解決に向けて貢献することができる。(DP3-2) (態度・志向性)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

7.他者が納得する構成のレポートや発表資料を整えることができる。(DP4-1) (技能)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

8.仲間と協働することの価値を自分なりに見いだした上で、その価値の実現に向けて活動しようとするすることができる。(DP4-2) (態度・志向性)

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)

香野 淳、平田 暢、古川 善也、高橋 伸弥

期別：集中前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義及び演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し

授業時間割：集中前期 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

本科目は、Society 5.0時代に求められるデータサイエンス・AIの基礎を身に付けるための入門科目であり、文部科学省のプログラム認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を受けた内容の科目です。

本科目では、データサイエンスやAIについて興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養（新たな読み書きそろばん）を習得するため、社会で活用されている事例を通して、データサイエンスやAIに関する基礎的な知識と技術を学びます。また、この入門科目での学習をきっかけとして、大学生のうちに数理・データサイエンス・AIに関する学びをさらに深め、将来は、日常や仕事の場においてデータサイエンスやAIを使いこなせるようになることを目指して、自ら学習に取り組んでいくことが期待されています。

本科目は、自分にあったペースで学び、関心を高めていけるよう、いつでも、どこでも、何度でも学習できるLMS（学習管理システム）/eラーニング（e-Learning）教材を活用して学んでいきます。各自が都合の良い時間を利用して、それぞれのペースで受講していくことはこの科目の特徴の一つです。また、分からない箇所や教材の活用等について質問できるように、そしてデータサイエンス・AIに関連する考えや知識を他者と共有して学びを深められるように、学期中に質問会や説明会を開催する予定です。質問会や説明会は、自分が見落としていたことや問題点を発見できる場でもあります。自ら学ぶ姿勢をもつことが大切ですので、成績評価においては、知識・理解だけでなく、各回の授業の取り組みを重視します。

--- 授業の進行・方法 ---

この科目は、LMS（学習管理システム）/eラーニング（e-Learning）教材を活用した講義科目で、教室での講義ではなく、自分でオンデマンド型講義のコンテンツを視聴し、授業メモを取り、分からない用語や手法等についてはインターネット等を活用して自ら調べて学んでいきます。各回の講義動画を視聴した後は、内容に応じた確認テストや課題、質問等に解答してもらいます。また、授業期間中に復習テストを実施する予定です（e-Learningの中で実施）。確認テスト、課題、復習テスト等の解答や提出物はそれぞれ決められた期限までに提出しなくてはなりません。

さらに、教室において対面での質問会や説明会を開催し、他の受講生の質疑内容や意見を聴きくこと、意見交換ができるようにします。また、学びを深めたい人のために参考となる教科書やインターネットサイトを紹介します。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

AI・データサイエンスの必要性を説明できる(DP1-1)(知識・理解)

社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる(DP1-1)(知識・理解)

どのような思考方法でデータを扱うかについて説明できる(DP1-1)(技能)

データを読み、説明することができる(DP1-1)(技能)

Excelなどの汎用ソフトウェアを用いて典型的なデータを扱うことができる(DP4-1)(技能)

データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる(DP4-1)(知識・理解)

数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢が身に付いている(DP1-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次の授業内容に関連する用語やそれに関連する情報を調べるとともに、これまでに学んだ事項との結びつきや用語間の関連性について考える。(90分)

復習：授業内容をまとめた授業メモ、資料を読み返し、授業内容の理解を深める。また、積極的に課題や演習に取り組み、理解が十分でない内容や不正解となった問題に関する箇所を中心に講義動画を何度も視聴して理解を確かなものにしていく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

・本科目は単位認定科目である（可否のみを判定）。

・評価基準：到達目標に対する達成度を評価基準とする。

・評価方法：定期試験は行わず、学習に取り組む態度・姿勢（e-Learningにおける講義受講状況、確認テストや自己評価などの取り組み）および確認テストや演習課題等の評点を約60%、質問会や説明会における確認テストの結果および質疑応答内容や態度・姿勢を約10%、復習テストの評価を約30%として、総合的に評価する。なお、復習テストは、他のテストや課題と同様に、e-Learning中に設定されます。

--- テキスト ---

特に定めない。参考となる図書を紹介する。

--- 参考書 ---

北川 源四郎、竹村彰通（編）、「教養としてのデータサイエンス（データサイエンス入門シリーズ）」（講談社、2021） ISBN 978-4065238097

--- 履修上の留意点 ---

(1) 授業時間割の欄には「集中前期」と表記されますが、集中講義期間に受講する科目ではなく、通常の前期開講の科目と同じ期間内に受講し、確認テストや課題等の提出も前期授業期間内に行う科目です。（正確な提出締切日などは別途通知されます。）

(2) 本科目は、オンライン上で自ら学んでいく科目であり、各自が都合の良い時間に受講することができるオンデマンド型授業です。前期授業の期間中、講義動画は何度でも視聴できるので、自分のペースで学び、確認テストや課題等に取り組んでください。ただし、期間内に課題等の提出まですべて終わるように、無理のない計画を立てて学んでいきましょう。

(3) 講義動画の視聴、確認テストや課題の提出等の全てを自らの力でできるように、理解を助けるために活用してください。

(4) 質問およびその回答はFUポータル上のBBS掲示板、FU_boxを使って共有できます

ので、理解を助けるために活用してください。

(5) 教室での対面（もしくはオンラインと対面のハイブリッド）で、質問を受けつけ、一緒に考える機会を設けます（質問会と称します）。また、受講方法などに関する説明会を開催します。他の受講生からの質問やそれに対する回答を直接聴くことができる場にもなりますので、積極的に参加してください。開催日時等の詳細は、FUポータルおよびメールを通じて連絡します。

(6) 質問およびその回答はFUポータル上のBBS掲示板、FU_boxを使って共有できますので、理解を助けるために活用してください。

【e-Learningの利用について】

本科目の履修が確定した後、（大学のIDとは別に）この科目専用のLMS/e-Learningのアカウントが履修者に発行されます。専用LMS/e-Learningの授業コンテンツはアカウントを受け取ってから利用できるようになります。なお、第1回「スタートアップ授業」については、FUポータルから大学のIDで受講できます。

--- 授業計画 ---

第1回 スタートアップ授業

・授業のガイダンス

（教員紹介、受講の仕方、注意事項など）

・イントロダクション

（データサイエンスを学ぶ意義など）

第2回 社会で起きている変化

第3回 社会で活用されているデータ

第4回 データ・AIの活用領域

* 第4回までの締切日に注意

第5回 データ・AI利活用のための技術

第6回 データ活用とは

第7回 データ・AI利活用の現場

第8回 データ・AI利活用の最新動向

* 第8回までの締切日に注意

第9回 データを読む(1)

第10回 データを読む(2)

第11回 データを説明する

第12回 データを扱う

* 第12回までの締切日に注意

第13回 データ・AIを扱う上での留意事項(1)

第14回 データ・AIを扱う上での留意事項(2)

第15回 データを守る上での留意事項とまとめ

・今後に向けた学習について(研究の事例を通して知るデータサイエンスの応用)

・授業アンケートFURIKAの実施

* 第15回までの最終締切日に注意

* 担当者全員、授業全15回を担当します。

【特記事項1】上記15回分の授業とは別に、データサイエンスが重要視される背景やデジタル技術のキーワードに関する事項を学ぶe-Learningコンテンツ「データサイエンスとは」を設けています。「データサイエンスとは」については、専用LMS/e-Learningのアカウントを受け取った後、できる限り早い時期に受講しておくこと（確認テスト等も含めて、第2回授業の前に受講することが望ましい）。

【特記事項2】*印の通り、第4回、第8回、第12回、第15回までの講義視聴、確認テストや課題等は、それぞれの締切日まで終了しなくてはなりません。各締切日までのe-Learningの取り組み、締切日までに提出されたテストや課題等の結果のみが評価対象となります。各締切日はFUポータルあるいは大学メール等を通じて連絡されますので、それらの連絡・通知に注意しておいてください。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(https://fukuoka-u.box.com/s/3rxrcur44mgtg2xdoy07sr05vxhiuxgr)

香野 淳、平田 暢、古川 善也、高橋 伸弥

全学部学科: DP1-1,DP1-2,DP4-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. AI・データサイエンスの必要性を説明できる（DP1-1）（知識・理解）
2. 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる（DP1-1）（知識・理解）
3. どのような思考方法でデータを扱うかについて説明できる（DP1-1）（技能）
4. データを読み、説明することができる（DP1-1）（技能）
5. Excelなどの汎用ソフトウェアを用いて典型的なデータを扱うことができる（DP4-1）（技能）
6. データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる（DP4-1）（知識・理解）
7. 数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢が身に付いている（DP1-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

香野 淳、平田 暢、古川 善也、五十嵐 寧史、高橋 伸弥

期別：集中後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義及び演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し

授業時間割：集中後期 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

本科目は、Society 5.0時代に求められるデータサイエンス・AIの基礎を身に付けるための入門科目であり、文部科学省のプログラム認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を受けた内容の科目です。

本科目では、データサイエンスやAIについて興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養（新たな読み書きそろばん）を習得するため、社会で活用されている事例を通して、データサイエンスやAIに関する基礎的な知識と技術を学びます。また、この入門科目での学習をきっかけとして、大学生のうちに数理・データサイエンス・AIに関する学びをさらに深め、将来は、日常や仕事の場においてデータサイエンスやAIを使いこなせるようになることを目指して、自ら学習に取り組んでいくことが期待されています。

本科目は、自分にあったペースで学び、関心を高めていけるよう、いつでも、どこでも、何度でも学習できるLMS（学習管理システム）/eラーニング（e-Learning）教材を活用して学んでいきます。各自が都合の良い時間を利用して、それぞれのペースで受講していくことはこの科目の特徴の一つです。また、分からない箇所や教材の活用等について質問できるように、そしてデータサイエンス・AIに関連する考えや知識を他者と共有して学びを深められるように、学期中に質問会や説明会を開催する予定です。質問会や説明会は、自分が見落としていたことや問題点を発見できる場でもあります。自ら学ぶ姿勢をもつことが大切ですので、成績評価においては、知識・理解だけでなく、各回の授業の取り組みを重視します。

--- 授業の進行・方法 ---

この科目は、LMS（学習管理システム）/eラーニング（e-Learning）教材を活用した講義科目で、教室での講義ではなく、自分でオンデマンド型講義のコンテンツを視聴し、授業メモを取り、分からない用語や手法等についてはインターネット等を活用して自ら調べて学んでいきます。各回の講義動画を視聴した後は、内容に応じた確認テストや課題、質問等に解答してもらいます。また、授業期間中に復習テストを実施する予定です（e-Learningの中で実施）。確認テスト、課題、復習テスト等の解答や提出物はそれぞれ決められた期限までに提出しなくてはなりません。

さらに、教室において対面での質問会や説明会を開催し、他の受講生の質疑内容や意見を聴きくこと、意見交換ができるようにします。また、学びを深めたい人のために参考となる教科書やインターネットサイトを紹介します。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

AI・データサイエンスの必要性を説明できる(DP1-1)(知識・理解)

社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる(DP1-1)(知識・理解)

どのような思考方法でデータを扱うかについて説明できる(DP1-1)(技能)

データを読み、説明することができる(DP1-1)(技能)

Excelなどの汎用ソフトウェアを用いて典型的なデータを扱うことができる(DP4-1)(技能)

データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる(DP4-1)(知識・理解)

数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢が身に付いている(DP1-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次の授業内容に関連する用語やそれに関連する情報を調べるとともに、これまでに学んだ事項との結びつきや用語間の関連性について考える。(90分)

復習：授業内容をまとめた授業メモ、資料を読み返し、授業内容の理解を深める。また、積極的に課題や演習に取り組み、理解が十分でない内容や不正解となった問題に関する箇所を中心に講義動画を何度も視聴して理解を確かなものにしていく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

・本科目は単位認定科目である（可否のみを判定）。

・評価基準：到達目標に対する達成度を評価基準とする。

・評価方法：定期試験は行わず、学習に取り組む態度・姿勢（e-Learningにおける講義受講状況、確認テストや自己評価などの取り組み）および確認テストや演習課題等の評点を約60%、質問会や説明会における確認テストの結果および質疑応答内容や態度・姿勢を約10%、復習テストの評価を約30%として、総合的に評価する。なお、復習テストは、他のテストや課題と同様に、e-Learning中に設定されます。

--- テキスト ---

特に定めない。参考となる図書を紹介する。

--- 参考書 ---

北川 源四郎、竹村彰通（編），「教養としてのデータサイエンス（データサイエンス入門シリーズ）」（講談社，2021） ISBN 978-4065238097

--- 履修上の留意点 ---

(1) 授業時間割の欄には「集中後期」と表記されますが、集中講義期間に受講する科目ではなく、通常の後期開講の科目と同じ期間内に受講し、確認テストや課題等の提出も後期授業期間内に行う科目です。（正確な提出締切日などは別途通知されます。）

(2) 本科目は、オンライン上で自ら学んでいく科目であり、各自が都合の良い時間に受講することができるオンデマンド型授業です。後期授業の期間中、講義動画は何度でも視聴できるので、自分のペースで学び、確認テストや課題等に取り組んでください。ただし、期間内に課題等の提出まですべて終わるように、無理のない計画を立てて学んでいきましょう。

(3) 講義動画の視聴、確認テストや課題の提出等の全てを自らの力でできるように、理解を助けるために活用してください。

(4) 質問およびその回答はFUポータル上のBBS掲示板、FU_boxを使って共有できます

ので、理解を助けるために活用してください。

(5) 教室での対面（もしくはオンラインと対面のハイブリッド）で、質問を受けつけ、一緒に考える機会を設けます（質問会と称します）。また、受講方法などに関する説明会を開催します。他の受講生からの質問やそれに対する回答を直接聴くことができる場にもなりますので、積極的に参加してください。開催日時等の詳細は、FUポータルおよびメールを通じて連絡します。

(6) 質問およびその回答はFUポータル上のBBS掲示板、FU_boxを使って共有できるので、理解を助けるために活用してください。

【e-Learningの利用について】

本科目の履修が確定した後、（大学のIDとは別に）この科目専用のLMS/e-Learningのアカウントが履修者に発行されます。専用LMS/e-Learningの授業コンテンツはアカウントを受け取ってから利用できるようになります。なお、第1回「スタートアップ授業」については、FUポータルから大学のIDで受講できます。

--- 授業計画 ---

第1回 スタートアップ授業

- ・授業のガイダンス（教員紹介、受講の仕方、注意事項など）
- ・イントロダクション（データサイエンスを学ぶ意義など）

第2回 社会で起きている変化

第3回 社会で活用されているデータ

第4回 データ・AIの活用領域

* 第4回までの締切日に注意

第5回 データ・AI利活用のための技術

第6回 データ活用とは

第7回 データ・AI利活用の現場

第8回 データ・AI利活用の最新動向

* 第8回までの締切日に注意

第9回 データを読む(1)

第10回 データを読む(2)

第11回 データを説明する

第12回 データを扱う

* 第12回までの締切日に注意

第13回 データ・AIを扱う上での留意事項(1)

第14回 データ・AIを扱う上での留意事項(2)

第15回 データを守る上での留意事項とまとめ

・今後に向けた学習について(研究の事例を通して知るデータサイエンスの応用)

・授業アンケートFURIKAの実施

* 第15回までの最終締切日に注意

* 担当者全員、授業全15回を担当します。

【特記事項1】上記15回分の授業とは別に、データサイエンスが重要視される背景やデジタル技術のキーワードに関する事項を学ぶe-Learningコンテンツ「データサイエンスとは」を設けています。「データサイエンスとは」については、専用LMS/e-Learningのアカウントを受け取った後、できる限り早い時期に受講しておくこと（確認テスト等も含めて、第2回授業の前に受講することが望ましい）。

【特記事項2】*印の通り、第4回、第8回、第12回、第15回までの講義視聴、確認テストや課題等は、それぞれの締切日まで終了しなくてはなりません。各締切日までのe-Learningの取り組み、締切日までに提出されたテストや課題等の結果のみが評価対象となります。各締切日はFUポータルあるいは大学メール等を通じて連絡されますので、それらの連絡・通知に注意しておいてください。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(https://fukuoka-u.box.com/s/vx79jzn2f0cqk0p8oe3ui4drfclph5rc)

香野 淳、平田 暢、古川 善也、五十嵐 寧史、高橋 伸弥

全学部学科: DP1-1,DP1-2,DP4-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1. AI・データサイエンスの必要性を説明できる（DP1-1）（知識・理解）
2. 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる（DP1-1）（知識・理解）
3. どのような思考方法でデータを扱うかについて説明できる（DP1-1）（技能）
4. データを読み、説明することができる（DP1-1）（技能）
5. Excelなどの汎用ソフトウェアを用いて典型的なデータを扱うことができる（DP4-1）（技能）
6. データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる（DP4-1）（知識・理解）
7. 数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢が身に付いている（DP1-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

香野 淳、平田 暢、古川 善也、高橋 伸弥

期別：集中前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義及び演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し

授業時間割：集中前期二部1時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

本科目は、Society 5.0時代に求められるデータサイエンス・AIの基礎を身に付けるための入門科目であり、文部科学省のプログラム認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を受けた内容の科目です。

本科目では、データサイエンスやAIについて興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養（新たな読み書きそろばん）を習得するため、社会で活用されている事例を通して、データサイエンスやAIに関する基礎的な知識と技術を学びます。また、この入門科目での学習をきっかけとして、大学生のうちに数理・データサイエンス・AIに関する学びをさらに深め、将来は、日常や仕事の場においてデータサイエンスやAIを使いこなせるようになることを目指して、自ら学習に取り組んでいくことが期待されています。

本科目は、自分にあったペースで学び、関心を高めていけるよう、いつでも、どこでも、何度でも学習できるLMS（学習管理システム）/eラーニング（e-Learning）教材を活用して学んでいきます。各自が都合の良い時間を利用して、それぞれのペースで受講していくことはこの科目の特徴の一つです。また、分からない箇所や教材の活用等について質問できるように、そしてデータサイエンス・AIに関連する考えや知識を他者と共有して学びを深められるように、学期中に質問会や説明会を開催する予定です。質問会や説明会は、自分が見落としていたことや問題点を発見できる場でもあります。自ら学ぶ姿勢をもつことが大切ですので、成績評価においては、知識・理解だけでなく、各回の授業の取り組みを重視します。

--- 授業の進行・方法 ---

この科目は、LMS（学習管理システム）/eラーニング（e-Learning）教材を活用した講義科目で、教室での講義ではなく、自分でオンデマンド型講義のコンテンツを視聴し、授業メモを取り、分からない用語や手法等についてはインターネット等を活用して自ら調べて学んでいきます。各回の講義動画を視聴した後は、内容に応じた確認テストや課題、質問等に解答してもらいます。また、授業期間中に復習テストを実施する予定です（e-Learningの中で実施）。確認テスト、課題、復習テスト等の解答や提出物はそれぞれ決められた期限までに提出しなくてはなりません。

さらに、教室において対面での質問会や説明会を開催し、他の受講生の質疑内容や意見を聴きくこと、意見交換ができるようにします。また、学びを深めたい人のために参考となる教科書やインターネットサイトを紹介します。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

AI・データサイエンスの必要性を説明できる(DP1-1)(知識・理解)

社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる(DP1-1)(知識・理解)

どのような思考方法でデータを扱うかについて説明できる(DP1-1)(技能)

データを読み、説明することができる(DP1-1)(技能)

Excelなどの汎用ソフトウェアを用いて典型的なデータを扱うことができる(DP4-1)(技能)

データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる(DP4-1)(知識・理解)

数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢が身に付いている(DP1-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次の授業内容に関連する用語やそれに関連する情報を調べるとともに、これまでに学んだ事項との結びつきや用語間の関連性について考える。(90分)

復習：授業内容をまとめた授業メモ、資料を読み返し、授業内容の理解を深める。また、積極的に課題や演習に取り組み、理解が十分でない内容や不正解となった問題に関する箇所を中心に講義動画を何度も視聴して理解を確かなものにしていく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

・本科目は単位認定科目である（可否のみを判定）。

・評価基準：到達目標に対する達成度を評価基準とする。

・評価方法：定期試験は行わず、学習に取り組む態度・姿勢（e-Learningにおける講義受講状況、確認テストや自己評価などの取り組み）および確認テストや演習課題等の評点を約60%、質問会や説明会における確認テストの結果および質疑応答内容や態度・姿勢を約10%、復習テストの評価を約30%として、総合的に評価する。なお、復習テストは、他のテストや課題と同様に、e-Learning中に設定されます。

--- テキスト ---

特に定めない。参考となる図書を紹介する。

--- 参考書 ---

北川 源四郎、竹村彰通（編），「教養としてのデータサイエンス（データサイエンス入門シリーズ）」（講談社，2021） ISBN 978-4065238097

--- 履修上の留意点 ---

(1) 授業時間割の欄には「集中前期」と表記されますが、集中講義期間に受講する科目ではなく、通常の前期開講の科目と同じ期間内に受講し、確認テストや課題等の提出も前期授業期間内に行う科目です。（正確な提出締切日などは別途通知されます。）

(2) 本科目は、オンライン上で自ら学んでいく科目であり、各自が都合の良い時間に受講することができるオンデマンド型授業です。前期授業の期間中、講義動画は何度でも視聴できるので、自分のペースで学び、確認テストや課題等に取り組んでください。ただし、期間内に課題等の提出まですべて終わるように、無理のない計画を立てて学んでいきましょう。

(3) 講義動画の視聴、確認テストや課題の提出等の全てを自らの力でできるように、理解を助けるために活用してください。

(4) 質問およびその回答はFUポータルBBS掲示板、FU_boxを使って共有できます

ので、理解を助けるために活用してください。

(5) 教室での対面（もしくはオンラインと対面のハイブリッド）で、質問を受けつけ、一緒に考える機会を設けます（質問会と称します）。また、受講方法などに関する説明会を開催します。他の受講生からの質問やそれに対する回答を直接聴くことができる場にもなりますので、積極的に参加してください。開催日時等の詳細は、FUポータルおよびメールを通じて連絡します。

【e-Learningの利用について】

本科目の履修が確定した後、（大学のIDとは別に）この科目専用のLMS/e-Learningのアカウントが履修者に発行されます。専用LMS/e-Learningの授業コンテンツはアカウントを受け取ってから利用できるようになります。なお、第1回「スタートアップ授業」については、FUポータルから大学のIDで受講できます。

--- 授業計画 ---

第1回 スタートアップ授業

・授業のガイダンス

（教員紹介、受講の仕方、注意事項など）

・イントロダクション

（データサイエンスを学ぶ意義など）

第2回 社会で起きている変化

第3回 社会で活用されているデータ

第4回 データ・AIの活用領域

* 第4回までの締切日に注意。

第5回 データ・AI利活用のための技術

第6回 データ活用とは

第7回 データ・AI利活用の現場

第8回 データ・AI利活用の最新動向

* 第8回までの締切日に注意。

第9回 データを読む(1)

第10回 データを読む(2)

第11回 データを説明する

第12回 データを扱う

* 第12回までの締切日に注意。

第13回 データ・AIを扱う上での留意事項(1)

第14回 データ・AIを扱う上での留意事項(2)

第15回 データを守る上での留意事項とまとめ

・今後に向けた学習について(研究の事例を通して知るデータサイエンスの応用)

・授業アンケートFURIKAの実施

* 第15回までの最終締切日に注意。

* 担当者全員、授業全15回を担当します。

【特記事項1】上記15回分の授業とは別に、データサイエンスが重要視される背景やデジタル技術のキーワードに関する事項を学ぶe-Learningコンテンツ「データサイエンスとは」を設けています。「データサイエンスとは」については、専用LMS/e-Learningのアカウントを受け取った後、できる限り早い時期に受講しておくこと（確認テスト等も含めて、第2回授業の前に受講することが望ましい）。

【特記事項2】*印の通り、第4回、第8回、第12回、第15回までの講義視聴、確認テストや課題等は、それぞれの締切日まで終了しなくてはなりません。各締切日までのe-Learningの取り組み、締切日までに提出されたテストや課題等の結果のみが評価対象となります。各締切日はFUポータルあるいは大学メール等を通じて連絡されますので、それらの連絡・通知に注意しておいてください。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/ca92qf6sw70yj8e140u4otmjdmk9i>)

香野 淳、平田 暢、古川 善也、高橋 伸弥

全学部学科: DP1-1,DP1-2,DP4-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. AI・データサイエンスの必要性を説明できる (DP1-1) (知識・理解)
2. 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる (DP1-1) (知識・理解)
3. どのような思考方法でデータを扱うかについて説明できる (DP1-1) (技能)
4. データを読み、説明することができる (DP1-1) (技能)
5. Excelなどの汎用ソフトウェアを用いて典型的なデータを扱うことができる (DP4-1) (技能)
6. データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる (DP4-1) (知識・理解)
7. 数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢が身に付いている (DP1-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

香野 淳、平田 暢、古川 善也、五十嵐 寧史、高橋 伸弥

期別：集中後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義及び演習 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し

授業時間割：集中後期二部1時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

本科目は、Society 5.0時代に求められるデータサイエンス・AIの基礎を身に付けるための入門科目であり、文部科学省のプログラム認定制度「数理・データサイエンス・AI教育プログラム（リテラシーレベル）」の認定を受けた内容の科目です。

本科目では、データサイエンスやAIについて興味・関心を持ち、AI時代に身に付けておくべき素養（新たな読み書きそろばん）を習得するため、社会で活用されている事例を通して、データサイエンスやAIに関する基礎的な知識と技術を学びます。また、この入門科目での学習をきっかけとして、大学生のうちに数理・データサイエンス・AIに関する学びをさらに深め、将来は、日常や仕事の場においてデータサイエンスやAIを使いこなせるようになることを目指して、自ら学習に取り組んでいくことが期待されています。

本科目は、自分にあったペースで学び、関心を高めていけるよう、いつでも、どこでも、何度でも学習できるLMS（学習管理システム）/eラーニング（e-Learning）教材を活用して学んでいきます。各自が都合の良い時間を利用して、それぞれのペースで受講していくことはこの科目の特徴の一つです。また、分からない箇所や教材の活用等について質問できるように、そしてデータサイエンス・AIに関連する考えや知識を他者と共有して学びを深められるように、学期中に質問会や説明会を開催する予定です。質問会や説明会は、自分が見落としていたことや問題点を発見できる場でもあります。自ら学ぶ姿勢をもつことが大切ですので、成績評価においては、知識・理解だけでなく、各回の授業の取り組みを重視します。

--- 授業の進行・方法 ---

この科目は、LMS（学習管理システム）/eラーニング（e-Learning）教材を活用した講義科目で、教室での講義ではなく、自分でオンデマンド型講義のコンテンツを視聴し、授業メモを取り、分からない用語や手法等についてはインターネット等を活用して自ら調べて学んでいきます。各回の講義動画を視聴した後は、内容に応じた確認テストや課題、質問等に解答してもらいます。また、授業期間中に復習テストを実施する予定です（e-Learningの中で実施）。確認テスト、課題、復習テスト等の解答や提出物はそれぞれ決められた期限までに提出しなくてはなりません。

さらに、教室において対面での質問会や説明会を開催し、他の受講生の質疑内容や意見を聴きくこと、意見交換ができるようにします。また、学びを深めたい人のために参考となる教科書やインターネットサイトを紹介します。

--- アクティブ・ラーニング ---

いいえ / No

--- 到達目標 ---

AI・データサイエンスの必要性を説明できる(DP1-1)(知識・理解)

社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる(DP1-1)(知識・理解)

どのような思考方法でデータを扱うかについて説明できる(DP1-1)(技能)

データを読み、説明することができる(DP1-1)(技能)

Excelなどの汎用ソフトウェアを用いて典型的なデータを扱うことができる(DP4-1)(技能)

データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる(DP4-1)(知識・理解)

数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢が身に付いている(DP1-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

予習：次の授業内容に関連する用語やそれに関連する情報を調べるとともに、これまでに学んだ事項との結びつきや用語間の関連性について考える。(90分)

復習：授業内容をまとめた授業メモ、資料を読み返し、授業内容の理解を深める。また、積極的に課題や演習に取り組み、理解が十分でない内容や不正解となった問題に関する箇所を中心に講義動画を何度も視聴して理解を確かなものにしていく。(90分)

--- 成績評価基準および方法 ---

・このクラスは定期試験期間中には試験は実施しません。よって再試験も実施しません。

・本科目は単位認定科目である（可否のみを判定）。

・評価基準：到達目標に対する達成度を評価基準とする。

・評価方法：定期試験は行わず、学習に取り組む態度・姿勢（e-Learningにおける講義受講状況、確認テストや自己評価などの取り組み）および確認テストや演習課題等の評点を約60%、質問会や説明会における確認テストの結果および質疑応答内容や態度・姿勢を約10%、復習テストの評価を約30%として、総合的に評価する。なお、復習テストは、他のテストや課題と同様に、e-Learning中に設定されます。

--- テキスト ---

特に定めない。参考となる図書を紹介する。

--- 参考書 ---

北川 源四郎、竹村彰通（編）、「教養としてのデータサイエンス（データサイエンス入門シリーズ）」（講談社、2021） ISBN 978-4065238097

--- 履修上の留意点 ---

- (1) 授業時間割の欄には「集中後期」と表記されますが、集中講義期間に受講する科目ではなく、通常の後期開講の科目と同じ期間内に受講し、確認テストや課題等の提出も後期授業期間内に行う科目です。（正確な提出締切日などは別途通知されます。）
- (2) 本科目は、オンライン上で自ら学んでいく科目であり、各自が都合の良い時間に受講することができるオンデマンド型授業です。後期授業の期間中、講義動画は何度でも視聴できるので、自分のペースで学び、確認テストや課題等に取り組んでください。ただし、期間内に課題等の提出まですべて終わるように、無理のない計画を立てて学んでいきましょう。
- (3) 講義動画の視聴、確認テストや課題の提出等の全てを自らの力でできるように、理解を助けるために活用してください。
- (4) 質問およびその回答はFUポータルサイトのBBS掲示板、FU_boxを使って共有できますので、理解を助けるために活用してください。
- (5) 教室での対面（もしくはオンラインと対面のハイブリッド）で、質問を受けつけ、一緒に考える機会を設けます（質問会と称します）。また、受講方法などに関する説明会を開催します。他の受講生からの質問やそれに対する回答を直接聴くことができる場にもなりますので、積極的に参加してください。開催日時等の詳細は、FUポータルおよびメールを通じて連絡します。

【e-Learningの利用について】

本科目の履修が確定した後、（大学のIDとは別に）この科目専用のLMS/e-Learningのアカウントが履修者に発行されます。専用LMS/e-Learningの授業コンテンツはアカウントを受け取ってから利用できるようになります。なお、第1回「スタートアップ授業」については、FUポータルから大学のIDで受講できます。

--- 授業計画 ---

第1回 スタートアップ授業

- ・授業のガイダンス（教員紹介、受講の仕方、注意事項など）
- ・イントロダクション（データサイエンスを学ぶ意義など）

第2回 社会で起きている変化

第3回 社会で活用されているデータ

第4回 データ・AIの活用領域

* 第4回までの締切日に注意。

第5回 データ・AI利活用のための技術

第6回 データ活用とは

第7回 データ・AI利活用の現場

第8回 データ・AI利活用の最新動向

* 第8回までの締切日に注意。

第9回 データを読む(1)

第10回 データを読む(2)

第11回 データを説明する

第12回 データを扱う

* 第12回までの締切日に注意。

第13回 データ・AIを扱う上での留意事項(1)

第14回 データ・AIを扱う上での留意事項(2)

第15回 データを守る上での留意事項とまとめ

・今後に向けた学習について(研究の事例を通して知るデータサイエンスの応用)

・授業アンケートFURIKAの実施

* 第15回までの最終締切日に注意。

* 担当者全員、授業全15回を担当します。

【特記事項1】上記15回分の授業とは別に、データサイエンスが重要視される背景やデジタル技術のキーワードに関する事項を学ぶe-Learningコンテンツ「データサイエンスとは」を設けています。「データサイエンスとは」については、専用LMS/e-Learningのアカウントを受け取った後、できる限り早い時期に受講しておくこと（確認テスト等も含めて、第2回授業の前に受講することが望ましい）。

【特記事項2】*印の通り、第4回、第8回、第12回、第15回までの講義視聴、確認テストや課題等は、それぞれの締切日まで終了しなくてはなりません。各締切日までのe-Learningの取り組み、締切日までに提出されたテストや課題等の結果のみが評価対象となります。各締切日はFUポータルあるいは大学メール等を通じて連絡されますので、それらの連絡・通知に注意しておいてください。

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(https://fukuoka-u.box.com/s/di3hwjdicxxkperzeu5p2sebnjc21fdr)

香野 淳、平田 暢、古川 善也、五十嵐 寧史、高橋 伸弥

全学部学科: DP1-1,DP1-2,DP4-1

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1. AI・データサイエンスの必要性を説明できる (DP1-1) (知識・理解)
2. 社会で活用されているデータ・AI活用の事例を例示できる (DP1-1) (知識・理解)
3. どのような思考方法でデータを扱うかについて説明できる (DP1-1) (技能)
4. データを読み、説明することができる (DP1-1) (技能)
5. Excelなどの汎用ソフトウェアを用いて典型的なデータを扱うことができる (DP4-1) (技能)
6. データ・AIを扱う上での留意事項を説明できる (DP4-1) (知識・理解)
7. 数理・データサイエンス・AIについて自ら学び、活かす姿勢が身に付いている (DP1-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

植上 一希、藤野真、鈴木学

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：火・1時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

本講義は1年生を対象に行う。

中心となる問いは、「大学生になる」とはどのようなことか、である。1年生は大学生としてのライセンスを得た状態に在るが、そのライセンスを中身あるものにしていくことが、「大学生になる」ということに他ならない。この「大学生になる」ために必要な考え方や取り組み方について、本講義では、具体的な実践もとりいれながら習得していく。

その際、この福岡大学において受講者が「福大生になる」という具体的な観点をとくに重視し、福大生の置かれている社会的位置やかけられている期待、福岡大学において活用できる諸資源とそれを用いての成長可能性などを学んでいく。

それをもとに、キャリアをデザインするとはどのようなことか、キャリアをデザインするために大学でどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自分自身のキャリアを考えるために必要な基本的な知識や考え方を理解することを目的とする。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は講義形式で実施する。授業の前半に前回のFormsの課題のフィードバック（20分程度）を行ったのちに新しい学習の講義（70分程度）を行う。授業では適宜授業内で匿名の意見の表明（インターネットの使用）や、挙手による発言・質問なども行っていく。

授業では自分の考えを表明することも重視するとともに、フィードバックにおける同じ授業を受講している学生の意見・コメントやその解説からの学びも重視している。反芻的な学習を進めてほしい。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

大学における学習・生活を有意義に送るための基礎的な知識・方法を理解し、それを自身の経験や関心と関連させて説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

大学生としての学びの成果を「適切に表現する」ための基礎的な知識を理解し、Formsやレポート等において活用できる。(DP3-1)(知識・理解)

様々な意見や考え方があることを踏まえて、自身の意見や質問をFormsやレポート等で表現することができる。(DP2-2)(技能)

福大生として得ることができる知識・スキルの契機と種類を理解し、それらを自己のキャリアデザインと結びつけて説明することができる。(DP4-1)(技能)

大学卒業後のキャリア形成と大学生活を関連させて把握する観点を有し、自らのキャリア形成を主体的に考えることができる。(DP1-2)(態度・志向性)

福大生としてのキャリアデザインの多様性を理解し、そのなかで自らのキャリアを積極的にデザインしようとする志向性を有する。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前に配布されるレジュメを予習しておくこと。(30分)

テキストの該当箇所の予習しておくこと。(30分)

授業後にテキストやレジュメをもとに復習をすること。(30分)

授業後にフィードバックをもとに復習をすること。(30分)

授業後にFormsに、授業に関する意見や質問を記入すること。(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

「レポート課題」2回（6割）、「Forms」（4割）で評価する。

到達目標として設定されている、「知識・理解」、「技能」、「態度・志向性」の6要素を基準として、評価を行う。

レポートにおいては、授業で用いた概念・理論を用いること、ならびに、授業で説明した論述の方法を適用することをとくに重視して評価を行う。

また、授業では小グループによる議論や、全体討論などを実施し、その積極的な参加状況も評価に加えることがある（加点）。

この科目は定期試験を実施しない。よって追試験も実施しない。

--- テキスト ---

鈴木学・植上一希・藤野真『大学生になるってどういうこと？ [第2版] 学習・生活・アイデンティティ』大月書店、2022年。

--- 参考書 ---

講義の中で随時紹介する。

--- 履修上の留意点 ---

資料はFUBOXにアップする。それらを自身でダウンロードや印刷などをして、授業に臨むこと。私語や遅刻など他者の学習権を侵害するような行為を禁止する。なお、部活・サークル活動等による欠席はとくに配慮しない。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 大学生ルーキーとしての現在を見つめるということ
3. これまでの自分を「振り返る」ということ
4. これからの未来に思いを巡らすということ
5. 大学生になるということ 大学生の学びを理解し実行していく
6. 不特定多数の他者に「伝える」ということ
7. 学びの成果を「適切に表現する」ということ
8. 大学生になるということ なりたい自分になる
9. 大学生として様々な社会と向き合うということ
10. 学生生活を支援するHDセンター
11. 「私の履歴書」作り方
12. キャリア形成を支援するキャリアセンター
13. 大学生になるということ
14. 授業の総括と振り返り
15. 授業での学びを共有しよう FURIKAの実施

<すべての授業を植上・藤野・鈴木が担当する>

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/yjeqeaq5gx2v585e4tg2b4dqchpk306>)

植上 一希、藤野真、鈴木学

全学部学科: DP1-1,DP1-2,DP2-2,DP3-1,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.大学における学習・生活を有意義に送るための基礎的な知識・方法を理解し、それを自身の経験や関心と関連させて説明することができる。(DP1-1) (知識・理解)

2.大学生としての学びの成果を「適切に表現する」ための基礎的な知識を理解し、Formsやレポート等において活用できる。(DP3-1) (知識・理解)

3.様々な意見や考え方があることを踏まえて、自身の意見や質問をFormsやレポート等で表現することができる。(DP2-2) (技能)

4.福大生として得ることができる知識・スキルの契機と種類を理解し、それらを自己のキャリアデザインと結びつけて説明することができる。(DP4-1) (技能)

5.大学卒業後のキャリア形成と大学生生活を関連させて把握する観点を有し、自らのキャリア形成を主体的に考えることができる。(DP1-2) (態度・志向性)

6.福大生としてのキャリアデザインの多様性を理解し、そのなかで自らのキャリアを積極的にデザインしようとする志向性を有する。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

植上 一希、藤野真、鈴木学

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：火・2時限 試験時間割：定期試験なし

--- 概要 ---

本講義は1年生を対象に行う。
中心となる問いは、「大学生になる」とはどういうことか、である。1年生は大学生としてのライセンスを得た状態にいるが、そのライセンスを中身あるものにしていくことが、「大学生になる」ということに他ならない。この「大学生になる」ために必要な考え方や取り組み方について、本講義では、具体的な実践もとりいれながら習得していく。
その際、この福岡大学において受講者が「福大生になる」という具体的な観点をとくに重視し、福大生の置かれている社会的位置やかけられている期待、福岡大学において活用できる諸資源とそれをういての成長可能性などを学んでいく。
それをもとに、キャリアをデザインするとはどういうことか、キャリアをデザインするために大学でどのようなことを学び、身につけておかなければならないのかなど、自分自身のキャリアを考えるために必要な基本的な知識や考え方を理解することを目的とする。

--- 授業の進行・方法 ---

本授業は講義形式で実施する。授業の前半に前回のFormsの課題のフィードバック（20分程度）を行ったのちに新しい学習の講義（70分程度）を行う。授業では適宜授業内で匿名の意見の表明（インターネットの使用）や、挙手による発言・質問なども行っていく。

授業では自分の考えを表明することも重視するとともに、フィードバックにおける同じ授業を受講している学生の意見・コメントやその解説からの学びも重視している。反芻的な学習を進めてほしい。

--- アクティブ・ラーニング ---

はい / Yes

--- 到達目標 ---

大学における学習・生活を有意義に送るための基礎的な知識・方法を理解し、それを自身の経験や関心と関連させて説明することができる。(DP1-1)(知識・理解)

大学生としての学びの成果を「適切に表現する」ための基礎的な知識を理解し、Formsやレポート等において活用できる。(DP3-1)(知識・理解)

様々な意見や考え方があることを踏まえて、自身の意見や質問をFormsやレポート等で表現することができる。(DP2-2)(技能)

福大生として得ることができる知識・スキルの契機と種類を理解し、それらを自己のキャリアデザインと結びつけて説明することができる。(DP4-1)(技能)

大学卒業後のキャリア形成と大学生活を関連させて把握する観点を有し、自らのキャリア形成を主体的に考えることができる。(DP1-2)(態度・志向性)

福大生としてのキャリアデザインの多様性を理解し、そのなかで自らのキャリアを積極的にデザインしようとする志向性を有する。(DP4-2)(態度・志向性)

--- 授業時間外の学習(予習・復習) ---

事前に配布されるレジュメを予習しておくこと。(30分)

テキストの該当箇所の予習しておくこと。(30分)

授業後にテキストやレジュメをもとに復習をすること。(30分)

授業後にフィードバックをもとに復習をすること。(30分)

授業後にFormsに、授業に関する意見や質問を記入すること。(60分)

--- 成績評価基準および方法 ---

「レポート課題」2回（6割）、「Forms」（4割）で評価する。
到達目標として設定されている、「知識・理解」、「技能」、「態度・志向性」の6要素を基準として、評価を行う。
レポートにおいては、授業で用いた概念・理論を用いること、ならびに、授業で説明した論述の方法を適用することをとくに重視して評価を行う。
また、授業では小グループによる議論や、全体討論などを実施し、その積極的な参加状況も評価に加えることがある（加点）。
この科目は定期試験を実施しない。よって追試験も実施しない。

--- テキスト ---

鈴木学・植上一希・藤野真『大学生になるってどういうこと？ [第2版] 学習・生活・アイデンティティ』大月書店、2022年。

--- 参考書 ---

講義の中で随時紹介する。

--- 履修上の留意点 ---

資料はFUBOXにアップする。それらを自身でダウンロードや印刷などをして、授業に臨むこと。私語や遅刻など他者の学習権を侵害するような行為を禁止する。なお、部活・サークル活動等による欠席はとくに配慮しない。

--- 授業計画 ---

1. イントロダクション（スタートアップ授業）
2. 大学生ルーキーとしての現在を見つめるということ
3. これまでの自分を「振り返る」ということ
4. これからの未来に思いを巡らすということ
5. 大学生になるということ 大学生の学びを理解し実行していく
6. 不特定多数の他者に「伝える」ということ
7. 学びの成果を「適切に表現する」ということ
8. 大学生になるということ なりたい自分になる
9. 大学生として様々な社会と向き合うということ
10. 学生生活を支援するHDセンター
11. 「私の履歴書」作り方
12. キャリア形成を支援するキャリアセンター
13. 大学生になるということ
14. 授業の総括と振り返り
15. 授業での学びを共有しよう FURIKAの実施

<すべての授業を植上・藤野・鈴木が担当する>

--- スタートアップ授業 ---

スタートアップ授業
(<https://fukuoka-u.box.com/s/unxn068cm0sdjji3v15z0hp6akw8idiv>)

植上 一希、藤野真、鈴木学

全学部学科: DP1-1,DP1-2,DP2-2,DP3-1,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー（DP）

1.大学における学習・生活を有意義に送るための基礎的な知識・方法を理解し、それを自身の経験や関心と関連させて説明することができる。（DP1-1）（知識・理解）

2.大学生としての学びの成果を「適切に表現する」ための基礎的な知識を理解し、Formsやレポート等において活用できる。（DP3-1）（知識・理解）

3.様々な意見や考え方があることを踏まえて、自身の意見や質問をFormsやレポート等で表現することができる。（DP2-2）（技能）

4.福大生として得ることができる知識・スキルの契機と種類を理解し、それらを自己のキャリアデザインと結びつけて説明することができる。（DP4-1）（技能）

5.大学卒業後のキャリア形成と大学生活を関連させて把握する観点を有し、自らのキャリア形成を主体的に考えることができる。（DP1-2）（態度・志向性）

6.福大生としてのキャリアデザインの多様性を理解し、そのなかで自らのキャリアを積極的にデザインしようとする志向性を有する。（DP4-2）（態度・志向性）

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間（6年間）の学びを支える基礎を身につけている（A、B、C）

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている（A、B、C）

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる（A、B、C）

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる（A、B、C）

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる（A、C）

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる（B、C）

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる（A、B）

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる（B、C）

平田 暢、鶴田直之、須長一幸、鈴木 学

期別：前期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：前期：火・3時限 試験時間割：定期試験なし

概要

みなさんは大学入学後に自分がどのように学び、成長していくのかイメージできますか。数ある大学の中で福岡大学を選択した理由は様々あると思いますが、みなさんがこれから充実した4年間（6年間）を過ごすためには、本学が有する学びの資源を適切に理解し、その資源をみなさん自身のために存分に活用していくことが重要です。そこで大学での学びに足を踏み入れた1年生が福岡大学における「学びのイロハ」を習得できるよう本授業が設計されています。

第2回～第9回の授業は、基本的に 前回授業の振り返り、講義、グループワークで構成されます。あわせてみなさんには毎回の授業終了後（授業時間外）に リフレクションとして、授業で何を学んだかを自分なりに振り返ってもらいます。

まず 前回授業の振り返りでは、みなさんの リフレクションでの記述をもとに、受講生同士の認識を共有し、わからなかったことやより知りたいと感じたことを全体で深掘りします。次に 講義では、各回の学習テーマに精通されている先生（ゲストスピーカー）の話を聴講します。そして グループワークでは、各回の学習テーマに応じた協働活動が設定されているので、グループメンバーと協力しながら活動に臨みます。最後に リフレクションを通じて、これらの学習活動を個々人で振り返り意味づけしていきます。～ を繰り返すことで、福岡大学の理解を深めながら、大学での学びの基礎を習慣づけていきます。で「福岡大学を学び」、を通じて「福岡大学でいかに学ぶか」に対する自分なりの答えを見つけていきましょう。

第10回～第15回の授業では、それまでの授業で学んだことをもとに、グループ課題に取り組んでもらいます。グループで福岡大学の特徴を整理しながら、福岡大学で学ぶ意味をより深く検討した上でプレゼンテーションに臨みます。

授業の進行・方法

授業は第9回までは講義（動画）とグループワークの構成で進行します。第10回以降はこれまでの授業での学習成果を活かすことが求められるグループ課題が出され、固定グループで発表会に向けた協働作業に取り組みます。みなさんには授業全回を通して授業後にリフレクションペーパーを作成してもらいますが、ここでの記述内容は授業各回の冒頭で実施するフィードバックの題材となります。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

福岡大学で学ぶ意義について理解を深め、自分の言葉で表現できる。(DP1-1)(知識・理解)

大学における基礎的な学習スキル（リフレクション、レポート執筆、ディスカッション）を身につけることができる。(DP1-1)(技能)

自分と専門の異なる他者と協調・協働して学ぶことができる。(DP2-2)(態度・志向性)

学習内容を自身の関心と結び付け、自らの考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1)(知識・理解)

福岡大学の歴史や役割を踏まえ、自身の大学における学習の方向性について説明することができる。(DP4-1)(知識・理解)

他者と協調・協働してグループ課題に取り組み、自分の果たすべき役割を考え、課題の解決に貢献できる。(DP4-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：各回の学習テーマに関連する学内冊子や資料を読み、事前に関係する場所に足を運んで福岡大学の学習環境に触れてみる(90分)

復習：リフレクションペーパーの作成を通じて、講義内容を振り返り、授業から得た学びや気づきを自分なりにまとめる(90分)

成績評価基準および方法

本授業は定期試験のない科目です。よって、再試験を実施しません。成績評価は 毎授業後のリフレクションペーパー（60%）、中間・期末レポート（20%）、グループワークに関わる取組み（20%）により行います。本授業の性質上、みなさんが毎回の授業での学びの成果を適切に積み上げられているかを重視することから、を成績評価基準の軸としています。において、記述内容が他者にもわかりやすいか、自身で深い検討・考察がなされているか、締切期限内に提出できているかがポイントです。は自分だけでなく他者の学習への貢献も踏まえて評価します。

テキスト

特に使用しません。

参考書

- 『福大生のための学習ナビ2024』
- 各回の講義に関連する書籍や資料等に関しては、必要に応じてゲストスピーカーが講義中に紹介します

履修上の留意点

- 可能な限り、授業にはネットワークに接続できる情報機器（ノートパソコン、タブレット）を持参してください。
- 講義内容を記録・整理するためにノート或いは情報機器を準備してください。
- この授業は「大学」を学ぶ科目です。大学で学ぶ基本ルール（主に遅刻をしない、私語をしない、途中退室をしない）を守って受講しましょう。
- この授業の前半はテーマごとの「オムニバス形式」講義とグループワークで構成されます。オムニバス形式とは、複数の先生の講義によって構成され進行する授業の形式を意味します。各講義を担当する先生（ゲストスピーカー）はそれぞれ異なる内容の講義を行うことから、1回でも欠席すればその内容の講義を全て聞き逃してしまうことになるので、欠席には注意しましょう。
- 本授業には学生の学習支援者（Student Advisor: SA）が参画します。
- 授業風景を撮影し、報告や広報等に活用することがあります。
- 授業実施に係るデータ、学習成果等を教育改善・研究に活用することがあります（発表・公表の際には個人が特定されないようにします）。

授業計画

第1回：スタートアップ授業：本授業での“学び方”を学ぼう【鈴木】

第2回：「大学」について考えよう【平田、須長、鈴木】

第3回：「福岡大学の過去・現在・未来」に触れよう【平田、鶴田、須長、鈴木】

第4回：「福岡大学の教育の仕組み」を知ろう【平田、鶴田、須長、鈴木】

第5回：「福岡大学の共通教育」を理解しよう【平田、須長、鈴木】

第6回：「福岡大学のメディア」を使いこなそう【平田、須長、鈴木】

第7回：「福岡大学での学生生活」をイメージしよう【平田、須長、鈴木】

第8回：「福岡大学と地域・社会のつながり」を知ろう【平田、須長、鈴木】

第9回：「卒業後のキャリア」を意識しよう【平田、須長、鈴木】

第10回：グループ課題に取り組む：課題内容を理解し、取り組み計画を練ろう【平田、鶴田、須長、鈴木】

第11回：グループ課題に取り組む：第9回までの学習成果を整理し、プレゼンテーションを構想しよう【平田、鶴田、須長、鈴木】

第12回：グループ課題に取り組む：プレゼンテーション資料を作成しよう【平田、鶴田、須長、鈴木】

第13回：グループ課題に取り組む：プレゼンテーションの練習をし、改善点を見つけよう【平田、鶴田、須長、鈴木】

第14回：グループ課題の最終発表会【平田、鶴田、須長、鈴木】

第15回：講評、授業総括、FURIKA【平田、鶴田、須長、鈴木】

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/komezziimj5n06osk0bt2gmz2j00a0b5>)

平田 暢、鶴田直之、須長一幸、鈴木 学

全学部学科: DP1-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.福岡大学で学ぶ意義について理解を深め、自分の言葉で表現できる。
(DP1-1) (知識・理解)

2.大学における基礎的な学習スキル(リフレクション, レポート執筆, ディスカッション)を身につけることができる。(DP1-1) (技能)

3.自分と専門の異なる他者と協調・協働して学ぶことができる。(DP2-2)
(態度・志向性)

4.学習内容を自身の関心と結び付け、自らの考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1) (知識・理解)

5.福岡大学の歴史や役割を踏まえ、自身の大学における学習の方向性について説明することができる。(DP4-1) (知識・理解)

6.他者と協調・協働してグループ課題に取り組み、自分の果たすべき役割を考え、課題の解決に貢献できる。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解, B:技能, C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A, B, C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A, B, C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A, B, C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A, B, C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A, C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B, C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A, B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B, C)

平田 暢、鶴田直之、須長一幸、鈴木 学

期別：後期 単位数：2 開講年次：1 授業の種類：対面授業科目 授業形態：講義 実務経験：無し 科目水準：入門 試験実施：無し
授業時間割：後期：木・2時限 試験時間割：定期試験なし

概要

みなさんは大学入学後に自分がどのように学び、成長していくのかイメージできますか。数ある大学の中で福岡大学を選択した理由は様々あると思いますが、みなさんがこれから充実した4年間（6年間）を過ごすためには、本学が有する学びの資源を適切に理解し、その資源をみなさん自身のために存分に活用していくことが重要です。そこで大学での学びに足を踏み入れた1年生が福岡大学における「学びのイロハ」を習得できるよう本授業が設計されています。

第2回～第9回の授業は、基本的に 前回授業の振り返り、講義、グループワークで構成されます。あわせてみなさんには毎回の授業終了後（授業時間外）に リフレクションとして、授業で何を学んだかを自分なりに振り返ってもらいます。

まず 前回授業の振り返りでは、みなさんの リフレクションでの記述をもとに、受講生同士の認識を共有し、わからなかったことやより知りたいと感じたことを全体で深掘りします。次に 講義では、各回の学習テーマに精通されている先生（ゲストスピーカー）の話を聴講します。そして グループワークでは、各回の学習テーマに応じた協働活動が設定されているので、グループメンバーと協力しながら活動に臨みます。最後に リフレクションを通じて、これらの学習活動を個々人で振り返り意味づけしていきます。～ を繰り返すことで、福岡大学の理解を深めながら、大学での学びの基礎を習慣づけていきます。で「福岡大学を学び」、を通じて「福岡大学でいかに学ぶか」に対する自分なりの答えを見つけていきましょう。

第10回～第15回の授業では、それまでの授業で学んだことをもとに、グループ課題に取り組んでもらいます。グループで福岡大学の特徴を整理しながら、福岡大学で学ぶ意味をより深く検討した上でプレゼンテーションに臨みます。

授業の進行・方法

授業は第9回までは講義（動画）とグループワークの構成で進行します。第10回以降はこれまでの授業での学習成果を活かすことが求められるグループ課題が出され、固定グループで発表会に向けた協働作業に取り組みます。みなさんには授業全回を通して授業後にリフレクションペーパーを作成してもらいますが、ここでの記述内容は授業各回の冒頭で実施するフィードバックの題材となります。

アクティブ・ラーニング

はい / Yes

到達目標

福岡大学で学ぶ意義について理解を深め、自分の言葉で表現できる。(DP1-1)(知識・理解)

大学における基礎的な学習スキル（リフレクション、レポート執筆、ディスカッション）を身につけることができる。(DP1-1)(技能)

自分と専門の異なる他者と協調・協働して学ぶことができる。(DP2-2)(態度・志向性)

学習内容を自身の関心と結び付け、自らの考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1)(知識・理解)

福岡大学の歴史や役割を踏まえ、自身の大学における学習の方向性について説明することができる。(DP4-1)(知識・理解)

他者と協調・協働してグループ課題に取り組み、自分の果たすべき役割を考え、課題の解決に貢献できる。(DP4-2)(態度・志向性)

授業時間外の学習(予習・復習)

予習：各回の学習テーマに関連する学内冊子や資料を読み、事前に関係する場所に足を運んで福岡大学の学習環境に触れてみる(90分)

復習：リフレクションペーパーの作成を通じて、講義内容を振り返り、授業から得た学びや気づきを自分なりにまとめる(90分)

成績評価基準および方法

本授業は定期試験のない科目です。よって、再試験を実施しません。成績評価は 毎授業後のリフレクションペーパー（60%）、中間・期末レポート（20%）、グループワークに関わる取組み（20%）により行います。本授業の性質上、みなさんが毎回の授業での学びの成果を適切に積み上げられているかを重視することから、を成績評価基準の軸としています。において、記述内容が他者にもわかりやすいか、自身で深い検討・考察がなされているか、締切期限内に提出できているかがポイントです。は自分だけでなく他者の学習への貢献も踏まえて評価します。

テキスト

特に使用しません。

参考書

- 『福大生のための学習ナビ 2024』
- 各回の講義に関連する書籍や資料等に関しては、必要に応じてゲストスピーカーが講義中に紹介します

履修上の留意点

- 可能な限り、授業にはネットワークに接続できる情報機器（ノートパソコン、タブレット）を持参してください。
- 講義内容を記録・整理するためにノート或いは情報機器を準備してください。
- この授業は「大学」を学ぶ科目です。大学で学ぶ基本ルール（主に遅刻をしない、私語をしない、途中退室をしない）を守って受講しましょう。
- この授業の前半はテーマごとの「オムニバス形式」講義とグループワークで構成されます。オムニバス形式とは、複数の先生の講義によって構成され進行する授業の形式を意味します。各講義を担当する先生（ゲストスピーカー）はそれぞれ異なる内容の講義を行うことから、1回でも欠席すればその内容の講義を全て聞き逃してしまうことになるので、欠席には注意しましょう。
- 本授業には学生の学習支援者（Student Advisor: SA）が参画します。
- 授業風景を撮影し、報告や広報等に活用することがあります。
- 授業実施に係るデータ、学習成果等を教育改善・研究に活用することがあります（発表・公表の際には個人が特定されないようにします）。

授業計画

第1回：スタートアップ授業：本授業での“学び方”を学ぼう【鈴木】

第2回：「大学」について考えよう【平田、須長、鈴木】

第3回：「福岡大学の過去・現在・未来」に触れよう【平田、鶴田、須長、鈴木】

第4回：「福岡大学の教育の仕組み」を知ろう【平田、鶴田、須長、鈴木】

第5回：「福岡大学の共通教育」を理解しよう【平田、須長、鈴木】

第6回：「福岡大学のメディア」を使いこなそう【平田、須長、鈴木】

第7回：「福岡大学での学生生活」をイメージしよう【平田、須長、鈴木】

第8回：「福岡大学と地域・社会のつながり」を知ろう【平田、須長、鈴木】

第9回：「卒業後のキャリア」を意識しよう【平田、須長、鈴木】

第10回：グループ課題に取り組む：課題内容を理解し、取り組み計画を練ろう【平田、鶴田、須長、鈴木】

第11回：グループ課題に取り組む：第9回までの学習成果を整理し、プレゼンテーションを構想しよう【平田、鶴田、須長、鈴木】

第12回：グループ課題に取り組む：プレゼンテーション資料を作成しよう【平田、鶴田、須長、鈴木】

第13回：グループ課題に取り組む：プレゼンテーションの練習をし、改善点を見つけよう【平田、鶴田、須長、鈴木】

第14回：グループ課題の最終発表会【平田、鶴田、須長、鈴木】

第15回：講評、授業総括、FURIKA【平田、鶴田、須長、鈴木】

スタートアップ授業

スタートアップ授業

(<https://fukuoka-u.box.com/s/uwpgdwgxm1109v54soc4t65bitef19qsm>)

平田 暢、鶴田直之、須長一幸、鈴木 学

全学部学科: DP1-1,DP2-2,DP3-1,DP4-1,DP4-2

共通教育 ディプロマ・ポリシー (DP)

1.福岡大学で学ぶ意義について理解を深め、自分の言葉で表現できる。
(DP1-1) (知識・理解)

2.大学における基礎的な学習スキル(リフレクション, レポート執筆, ディスカッション)を身につけることができる。(DP1-1) (技能)

3.自分と専門の異なる他者と協調・協働して学ぶことができる。(DP2-2)
(態度・志向性)

4.学習内容を自身の関心と結び付け、自らの考えや意見を他者に明確に伝えることができる。(DP3-1) (知識・理解)

5.福岡大学の歴史や役割を踏まえ、自身の大学における学習の方向性について説明することができる。(DP4-1) (知識・理解)

6.他者と協調・協働してグループ課題に取り組み、自分の果たすべき役割を考え、課題の解決に貢献できる。(DP4-2) (態度・志向性)

A:知識・理解、B:技能、C:態度・志向性
理念1 【学び続けていくための確かな基礎】

DP1-1 大学4年間(6年間)の学びを支える基礎を身につけている(A、B、C)

DP1-2 卒業後、生涯にわたり持続的に学び続ける姿勢を身につけている(A、B、C)

理念2 【多様性のある学問・価値観・他者との関わりを通じて培う広い視野と柔軟さ】

DP2-1 さまざまな領域の学問を学ぶことを通じて広い視野を培い、物事を多角的に見ることができる(A、B、C)

DP2-2 さまざまな他者の考え方・価値観があることを踏まえ、物事に柔軟に接することができる(A、B、C)

理念3 【自ら責任を担い、課題や困難に取り組み続ける心の強さ】

DP3-1 自分自身の発言・行動に誠実に責任を持つことができる(A、C)

DP3-2 困難な課題にもチャレンジでき、簡単には諦めない芯の強さを発揮できる(B、C)

理念4 【地域や社会に参画し、人や物事をつないでいく積極性】

DP4-1 身につけた知識やスキルを相互に関連づけ、さまざまな領域で活用・応用・工夫ができる(A、B)

DP4-2 チーム・地域・社会に主体的に関わり、人々の間をつないで成長に貢献することができる(B、C)